

第6回

八戸市都市計画マスタープラン等策定委員会

会 議 録

月 日 平成 29 年 2 月 8 日（水）

時 間 午後 1 時 30 分から午後 3 時 15 分まで

場 所 八戸市公民館 2 階会議室

第6回

八戸市都市計画マスタープラン等策定委員会

会議録

出席委員（11名）

第1号委員

武 山 泰 （八戸工業大学 教授）
権 克 裕 （八戸学院大学 教授）
河 村 信 治 （八戸工業高等専門学校 教授）

第2号委員

檜 山 幸 雄 （国土交通省 東北地方整備局
青森河川国道事務所 八戸国道出張所 所長）
木 村 高 広 （国土交通省 東北運輸局
青森運輸支局 首席運輸企画専門官）
川 村 宏 行 （青森県 県土整備部 都市計画課 課長）
（代理）柴田 司 （青森県 県土整備部 都市計画課 グループマネージャー）

第3号委員

石 橋 伸 之 （八戸市連合父母と教師の会 副会長）
泉 山 和 久 （三八五流通株式会社 常務取締役）
鶴 直 人 （八戸 IT・テレマーケティング未来創造協議会 幹事長）
田 頭 初 美 （八戸市私立幼稚園協会 会長）

石 亀 純 悦 (八戸市交通部 次長兼運輸管理課長)
(代理) 上 舘 大 (八戸市交通部 運輸管理課 営業グループリーダー)
慶 長 洋 子 (はちのへ男女共同参画推進ネットワーク 副代表)

第4号委員

橋 本 敏 子 (公 募)

事務局出席者

大 南 博 義	(都市整備部次長兼都市政策課長)
石 橋 敏 行	(都市政策課副参事 都市計画グループリーダー)
石 橋 正 一	(都市政策課副参事 交通政策グループリーダー)
石 橋 哲 博	(都市政策課主幹)
八木澤 尚 子	(都市政策課主幹)
木 村 祐 輔	(都市政策課技師)
鈴 木 一 真	(都市政策課技師)
佐 藤 俊 行	(株式会社ケー・シー・エス)
清 川 可 織	(株式会社ケー・シー・エス)

第6回八戸市都市計画マスタープラン等策定委員会

平成29年2月8日（水）午後1:30～午後3:15

八戸市公民館 2階会議室

○事務局（石橋 GL）

それではお時間となりましたので、ただいまより第6回八戸市都市計画マスタープラン等策定委員会を開会いたします。

まず、はじめに、都市整備部次長兼都市政策課長の 大南より挨拶を申し上げます。

○事務局（大南次長）

本日はお寒い中ご出席くださりましてありがとうございます。

本日報告案件といたしまして、昨年度の12月26日から今年1月25日まで実施いたしました立地適正化計画に関するパブリックコメントの結果報告、また議事案件といたしまして都市計画マスタープランの構成と各項目の記載内容、都市計画マスタープラン全体構想ということで、本日、皆様からご意見をいただきたいと思っております。

どうぞ忌憚のないご意見、ご提案をよろしく願います。

○事務局（石橋 GL）

本日は、福島大学の吉田委員、あおばの郷の 狛守委員、八戸市医師会の 於本委員、八戸市社会福祉協議会の 馬場委員、青森県建築士会の 古戸委員、青森県防災士会の 立花委員が欠席となっております。

本日の会議は、委員19名中半数以上が出席しておりますので、八戸市都市計画マスタープラン等策定委員会規則第5条第2項の規定により、会議が成立することをご報告いたします。

続きまして、本日の資料の確認をいたします。

資料は、お配りしております次第、席図、出席者名簿、意見メモと、事前に送付させていただきました、第6回策定委員会資料1～3もご用意ください。

事前配布資料も含めまして、お手元に資料のない方は、お知らせ下さい。

よろしいでしょうか。

お手元の意見メモですが、こちらは主に都市計画マスタープランについての意見メモとなっております。お帰りの際に受付にご提出をお願いいたします。

それでは、会長に進行をお願いいたします。

○会長（武山委員）

それでは、私の方で進行を務めさせていただきます。

まず、始めに策定委員会の会議録署名者の選任を行いたいと思いますが、私の方から指名させていただいてよろしいでしょうか。

『異議なし。』

ご異議無いようでございますので、それでは、檜山委員と鶴委員にお願いいたします。お二方どうぞよろしくお願いいたします。

それでは案件に入りたいと思います。

まずは、報告案件として事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局（石橋 GL）

では、報告案件といたしまして事前にお配りしている意見募集（パブリックコメント）の結果概要等（資料1）について説明いたします。

こちらは、大南次長の方から説明のあったとおり立地適正化計画の都市機能誘導区域についてのパブリックコメントをしたものの結果となっております。

意見募集の実施概要としましては平成28年の12月26日月曜日から平成29年1月25日まで31日間行っております。

実施方法としましては市のホームページですとか八戸市の都市政策課、本庁の本館、別館案内ですとかもろもろ公共施設の場所で縦覧させて頂いております。

意見募集の結果としましては、特に意見の提出というものはありませんでした。

市のサイトの方の閲覧件数は486件、500件弱ということで、閲覧はして頂いたのかなというところがございます。

続きまして、市民・事業者との意見交換の概要となっております。

こちらはですね、今年度を実施した主な内容となっております。

①事業者等の主なヒアリング調査となっております。こちらは八戸市内のスーパーマーケットを運営する商業事業者3社、具体的には「みなとや」さんや「ユニバース」さん、「よこまち」さんとなっております。

それから八戸市医師会を対象に利用者の特性ですとか、立地するための条件などの聞き取り調査を実施しております。

その際の聞き取りの概要を下の欄に載せてあります。

商業事業者の方のヒアリング結果としましては、出店に関しては周辺に人口が集積していることが望ましいというところで、やはり人口の集積が維持されれば今後も営業を継続していくことは十分に可能である、という風に考えていることと、それから公共交通のメリットなどをもっとアピールした方が良いのではないかと。運転免許などを返納しても買い物等に不便を感じない環境づくりが望ましいのではないかとといったところのご意見として出されております。

また、八戸市医師会につきましては、やはり高齢者の方でも自家用車の利用が目立つということと、バスの便利がいい診療所などに通院する高齢者の方も見られまして、公共交通の連携が重要になってくるのではないかとっておられました。

診療科にもよりますが半径 1km 以内に 1 万人程度の人口がないと診療所として成り立っていかないと。

こちらでもですね、集積人口がかなり重要視しているというお話でありました。

2 ページに参ります。

こちらは②市民まちづくり懇談会の概要となっております。平成 28 年の 9 月下旬から 10 月上旬までにかけて、地域別に合計 18 回、市全体で 2 回、合計 20 回の市民まちづくり懇談会となっております。

延べ 201 人の方に参加していただきました。

主な懇談会の内容といたしましては立地適正化計画ですとか都市計画マスタープランの見直しの概要を説明するといったところと、市民の皆様の普段の外出、お買い物ですとか通院に関しての行動ですとか、それからまちづくりの方向性の意見交換を実施しております。

今回は、立地適正化計画に関する意見をピックアップしてこちらに載せております。

都市機能誘導区域に関する関連と居住誘導区域に関する関連と、2 つの関連に分けて載せております。

まず、都市機能誘導区域に関しては新幹線が乗り入れている八戸駅の特性を生かして人を集められる施設などを誘導してはどうか、また空き家対策が問題となっているのではないか、人口減少が進んでいきますと税収などが減りますので、市内各地に点在しております公共施設など整備・維持していくのは難しいのではないかとということで税収とセットで考えていく必要がある。

あるいは行政が全てやるのではなくて民間の動きに市が協力する形も考えられるのではないかと、という意見が出されています。

また、居住誘導区域につきましては、やはり津波などの浸水予想区域は居住誘導区域から除外するなど、できるだけ安全第一に進めていただきたいと。

また、バスの利便性が割りと高いということで今後も維持されれば、自家用車の運転が難しくなってもバスを利用して生活していけるのではないかとということですとか、居住誘導区域につきましてはメリットとかきっかけがないと誘導するのは難しいのではないかと、居住誘導区域につきましてはシビアな意見が出されています。

③といたしまして、こちらはこの間行われました八戸商工会議所の不動産分科会での意見交換会ということで、こちらは平成 29 年 1 月 17 日 2 時から参加者は大体 20 名ということで立地適正化計画、特に、都市機能誘導区域の概要を説明しまして、事業者の方がメインでしたので都市機能誘導区域の設定・公表によりまして、その運用が開始され届出制度といったものが新たに出てきましたよと、PR の機会でもありましたのでそういった意見交換をさせていただいております。

3 ページに移ります。

最後 3 番目のところですね、前回第 5 回目のときに策定委員会で案を出したところ、こういったところを直した方がいいのではないかとというような、修正点を色々いただきましたので、修正点をこちらに載せております。

当日配布資料の立地適正化計画の案をご覧ください。

こちらの方で具体的にどこを直したのか確認していただきたいと思います。

まず、最初に表の上の方になります。

9 ページですね。

こちらが現在の人口密度の状況、平成 22 年と将来の平成 50 年の人口密度の予測のところでしたが、メッシュの大きさが違っていたために見づらいというご指摘を受けましたので、500 メッシュに統一しましてご覧のように現在の将来の予測というのが、一目瞭然に分かるように修正したということでございます。

次に、10 ページをお開きください。

こちらはさまざまな施設、医療ですとか商業施設、大型商業施設といったところの施設の立地条件についての図となっております。

本計画の中で誘導施設に設定している大型商業施設、大規模病院の立地状況といったものが星印とかですね、まったく同じ大きさになっていましたので、きちんと見えるように分かり易くしてほしいとご指摘いただきました。

修正点といたしまして、一般病床 200 床以上の大規模な病院ですとか、店舗面積 10,000 m²以上の大型商業施設などは通常の施設とは若干大きめの印で載せておりますので、ちょっとは見やすくなったのではないかと思います。

続きまして、22 ページから 23 ページをご覧ください。

こちらが、都市機能誘導区域と居住誘導区域、市内幹線軸の関係性がわかるような集約された図を使った方がいいのではないかとということで、例えば 13 ページあります公共交通ネットワークの図に重ねられないかということでございましたが、前回、都市機能誘導区域が載っていませんでしたので、こちらの方にも都市機能誘導区域といつているところを中心街、八戸駅周辺、田向地区を載せて重ねてイメージして作成したということでありませう。

続きまして 19 ページですね、こちらでは八戸市の馬淵川の渡河部分が道路、交通のネックとなっていて路線バスの定時制の低下の一因となっているのではないかと、橋梁の増設など、各拠点間の移動の円滑化のための政策というのを盛り込むことはできないのかというご意見をいただきました。

19 ページの表の④の間接的な誘導政策の実施といったところで、拠点間相互の移動円滑化を図る道路交通ネットワークの充実に関する記述を追加で記述しております。

続きまして、15 ページになります。

上の方の表なんですけれども前回一番上の大規模商業施設といったところで、中心街の既得権を守るような印象を与える懸念があるということで、中心街の意味といったものについて、ある程度文化的な価値とか整理して、強く中心街に集めていくというコンセプトを提示していく必要があるのではないかとご意見をいただきました。

前回の文言がかなり簡素なものとなっておりますので、「八戸市の顔」といったところで八戸圏域の経済との中心的な役割を担ってきた、というところを書き加えたというところでございます。

次に 15 ページの下の方にあります。

広域でみた場合、八戸圏域は北部や西部方面に広がっていることから八戸駅周辺にはエリアの玄関口といった位置づけも必要ではないかといっているようなところで、表の一番下の丸のところですね、「北方面や西方面に広がる八戸圏域」ですとか「玄関口となるエリア」といった文言を付け加えております。

最後になりますが、23 ページに戻ります。

こちらは来年度、居住誘導区域の考え方を正式的に決定していくこととなりますが、こちらの方のご意見もいただいております。

居住誘導区域につきまして駅やバス停からの距離に着目して設定するよう考えているようですけれど、根拠を明らかにする必要があるのではないかと、というところでこのページの一番下の黄色い部分で、駅・バスからの距離の考え方についてバス停の距離、鉄道からの距離、歩行圏、300mですとか500m、あるいは半径1kmというようなところをどのように採用したかというような考え方を明示しております。

前回の第5回目の策定委員会で提示して変更した大きなところは以上でございます。以上で資料1の方の説明を終わらせていただきます。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございました。

今の報告案件の説明について何か質問、コメント等あればどうぞ。

よろしいでしょうか。また後ほど戻ってもよろしいので、何かあればまたよろしく願います。

それでは議事案件として事務局の方から願います。

○事務局(株ケー・シー・エス佐藤)

株式会社ケー・シー・エスの佐藤と申します。

資料2、3について説明させていただきます。

まずは、資料2ですけれども、事前に配布させていただいております資料2、3については前方のスクリーンで説明させていただきます。

まず、資料2都市計画マスタープラン構成と各項目の記載内容というところで、都市計画マスタープランの全体構成を示しております。

全体の構成としましては八戸市の概況、それから社会情勢の変化と将来展望等を受けて、まず、都市計画に求められる課題というところで都市計画により対応が求められる個別的な課題を整理して、これを全体構想の中では都市計画に求められる課題を包括的に解決していくための都市計画における取り組みの方向性ということで基本理念というかたちでお示した上で、都市計画により実現を目指す将来の都市の姿を整理して、それを将来都市像の実現に必要な将来的な都市構造の在り方ということで、将来都市構造のかたちで落とし込んでいくところとさせていただきます。

赤枠で囲んでいるところが今回ご説明する内容になりますが、将来都市構造を踏まえて「まちづくりの方針」ということで、右側に吹き出しで示してありますが、土地利用、交通、水と緑、景観、防災、その他都市施設、協働のネットワークといったところで、7つの分野別にまちづくりの方針を示していくこととなります。

こういった全体構想に基づいて来年度の検討となりますが、市内を11の地域に区分してそれぞれの地域のまちづくりの方向性を検討していくということで、地域別構想を取りまとめてさらにはそういった計画の実現のための取り組み方法とか進め方、考え方、方針を推進方策として整理するといった流れで全体構想を考えております。

資料3の方になります。

まずは、検討のスケジュール等ということで、A3の資料の1ページになりますが、今年度の検討の進め方として、都市計画マスタープランと立地適正化計画の策定を引き続き行っていくということで、この図については毎回委員会の中では冒頭でご説明しているところですが、平成28年度については全体構想の見直しをやっていくということと、立地適正化計画の策定に関しては都市機能誘導区域の設定をやっていくというかたちで、今年度もワーキング会議とか市民まちづくり懇談会を実施しながら検討していくというかたちになります。

それから、策定委員会における検討内容ということで、今回は第6回になりますけども、今回の策定委員会のご意見を踏まえて、1つは年度内に立地適正化計画の都市機能誘導区域の設定・公表をやっていくことと、それから都市計画マスタープランについては全体構想の将来都市構造のところまで今回ご説明して、引き続き今年度中に全体構想のまちづくりの方針の検討まで進めて、年度明けに第7回ということでその後に全体構想の全体像といったかたちで、そういったことについてご意見をいただけたらというふうに考えています。

次にA3の資料の2ページ目になります。

八戸の現状等ということで八戸の概況については実は第4回の策定委員会でもご説明しておりますが、若干、記述を追加している部分もありますので改めてご説明をさせていただきます。

人口・産業・土地利用・交通と4つの視点で整理していますが、まず、人口の部分については立地適正化計画の検討の中でもご説明しているとおり総人口が減少している、高齢化が進展してきている、生産年齢人口・年少人口が減少しているということで働き手減少とか、あるいは人口が少なくなっていく中で消費市場の縮小による産業の低迷、さらには通勤・通学者の減少による公共交通の利用者の減少が懸念されるような状況になってきております。

それから、通勤・通学で八戸市に周辺の市町村から流入してくるような方々が減ってきているといったような部分もございまして、広域の中心都市として市の活力の維持・向上というのを図っていくことがあります。

それから、産業に関してみれば農業・工業含め各産業の生産額が横ばいぐらいの感じの傾向で推移しているということで生産額の低迷、それから農業なんかでは担い手の減少といったようなことも、大きな問題となってきているということで、都市の活力の低下が懸念されてきています。

ただし、一方では循環型産業、あるいはIT・テレマーケティング産業の立地と新たな動きも見ておりまして、新産業団地のようなお話もありますが、新たな産業誘致の可能性もあるとされています。

それから観光に関してみても、観光入り込み客数というのが増加してきているということで、観光振興によるさらなる交流人口の拡大といった明るい材料もございまして。

一方で、土地利用に関してみれば、市街化区域、DID地区、いわゆる人口集中地区という概ね1haあたり40人ぐらいの人口密度があるエリアの人口が減少してきていて、人口密度も低下してきている。

ということで、いわゆるインフラ都市基盤とか生活を支える都市機能の維持が困難にな

ってきていることも懸念するといったことで、それと中心市街地等で顕著な地価が下落しているということで人口減少とか都市機能が低下していくと、さらに、地価下落がおこることも懸念されています。

農地とか山林のような自然的な土地利用が減少する一方で、住宅地等の都市的な土地利用が増えるような傾向がみられまして、市街地が低密度に拡散していくことが懸念される。

一方では、農業生産とか良好な自然環境が懸念されるというようなことがございます。

それから交通に関しては、八戸の場合、新幹線・港湾・高速道路というような広域的な交通ネットワークの結節点になっているということで、非常に交通利便性が高い部分がございますので、産業立地等を推進する上ではこれが強い優位点となる可能性があります。

それから公共交通が非常に人口の高い割合をカバーしていたり、近年の路線バスの利用者が増加していたりといったようなこともあります。ただ一方で人口減少に伴って、利用者の伸び悩みが減少していくのが懸念されるというようなこともあります。

それから社会情勢の変化、将来展望等というところです。大きくは7つほどあげておりますけど、1点目は人口減少、高齢化の更なる進展ということで、すでに人口減少や高齢化の傾向は強く出てきているんですけど、これが今後もさらに進展していくような予測になってございます。

これに伴って、自家用車がなかなか利用できないとか、利用しにくい市民が増加する可能性であったり、人口減少といった観点からみますと子育てしやすい環境づくりが必要となってきたり、居住環境に対するニーズの変化なんかはあげられます。

それから2点目としましては、東日本大震災の発生ですとか大規模な台風、ゲリラ豪雨等の異常気象による異常災害の頻発に対する危機意識の高まり、備えの必要性の増大というようなことがあります。

それから地球環境問題の深刻化の部分では、温室効果ガスの排出抑制、都市の低炭素化に対する社会的な要請が強くなってきていることとか、市民の生活の部分でも環境負荷の低いライフスタイルへの転換が必要になってきているというようなことがあります。

それから社会資本の老朽化の顕在化ということで、都市基盤のインフラとかその他公共施設の維持管理更新に関わるコストが今後増大していくのではないかとということも懸念されております。

それから南郷村との合併につきましては、10年以上経過しているところでございますが、今の都市計画マスタープラン策定時にはまだ合併していなかったということで、社会情勢の変化ということで入れておりますが、これによって八戸市の市域がかなり拡大されているということ、それから地域の個性の多様化ということで今まで八戸市にはあまりなかった新たな個性とか魅力が追加されていくというようなことも考えられています。

それから今年の1月1日に中核市への移行がありまして、連携中枢都市圏を形成していく中では広域の中の中心都市として、八戸市が果たすべき役割というのは今後かなり増大していくのではないかと、それから都市間競争の激化、グローバル化の対応ということでみても、中心都市の果たすべき役割というのは大きいものになっていくのではないかとということが言えます。

最後ですが、市民ニーズが高度化・多様化してきているということで、行政主導による従来型の取り組みではなく、こういったものに対応できなくなっているみたいなことがある一方で、市民が主体になった取り組みが活発化してきているといったようなことが

将来展望としては考えられるのではないかとことです。

それからこういったものを踏まえて、都市計画に求められる課題ということで、ここでは11の項目で課題を整理してございます。

超高齢化社会への対応としてユニバーサルデザインといった視点にも配慮した都市づくり。

それから人口減少の抑制という部分では、住み続けたいと思ってもらえるような都市づくりが必要になってきます。

産業の活性化という部分では産業立地の促進、交流人口の拡大みたいなことで産業の活性化を促すような工夫が必要になってきます。

それから自然環境、農業生産環境との調和という部分では、森林とか海岸といったような豊かな自然環境、あるいは田園地帯の良好な農業生産環境と調和した都市づくりが必要になってきます。

それから地域の個性の発揮、活用といった部分では自然資源、歴史文化といった魅力を有効活用していくということも必要です。

それから都市としての一体性確保といった部分では、市域が広がった部分もございまして地域相互の連携を強化していくといったところが重要になってきます。

それから都市の防災性強化という部分では、震災・豪雨災害そして土砂災害などの多様な自然災害に対応できるような災害に強い都市づくりが必要になってきます。

それから広域の中心としての役割を果たしていくことが重要になってきます。さらには環境に優しい都市構造を構築していくこととか、都市の経営コストを抑制していく、あとは市民が主体となった都市づくりを推進していく必要があるということで、いろんな課題に対して都市計画としても対応していく必要があると整理してございます。

こうした課題は都市計画だけで対応できるわけではありませんが、都市計画での対応を考える際に、こうした細かい課題をひとつひとつ個別に対応していくというのも現実的じゃない部分もありまして、包括的にこれらに対応していくというものの考え方を整理していくのが、都市計画の基本理念ということで、都市計画における取り組みの方向性というような意味合いで大きく4点整理してございます。

続きましてA3の資料3ページ目。

まず1点目としましては都市の活力や魅力の向上というところですが、八戸市の有意性、地域の多様な個性なんかを効果的に活用していくことで都市の活力や魅力の向上を図っていくということですが、こういったことを通じて広域の中での中心都市としての役割を發揮できるような都市づくり、あるいは多くの人に住みたい・訪れたいと思うような都市、さらには人口の減少抑制や交流人口の拡大、多様な産業の活性化というのが1点目です。

2点目は、安全安心で暮らしやすい居住環境の形成ということですが、市民の日常生活を支える都市機能ですとか、公共交通手段の維持、さらには災害に対する安全性の向上を進めていくことで、高齢者や子育て世代など全ての世代に対して安心安全で暮らしやすいユニバーサルデザインの視点にも配慮した居住環境を作っていくということです。

3点目、都市の効率性や持続性の向上という部分では市街地の人口密度の維持とか様々な都市機能が集積する拠点の形成、あとは公共交通、医療、福祉などの関連分野との連携、

それから市街地の低密度化の拡散を抑制した自然環境・農産生産環境と調和した都市づくり。

社会資本の適正な維持管理による都市経営コストの抑制、環境負荷の軽減を図ることで、市民生活とか経済活動を支える様々なサービスを効率的に提供することができる、効率性の高い都市構造をつくっていく、さらには都市の持続性向上を図っていくことを進めていくといったところです。

最後に、多様な担い手による都市づくりの推進というところですが、行政とか市民個人はもちろんのこと事業者さんとか NPO などを含めた多様な担い手が協働する都市づくりを推進していくことで、多様化してきている市民のライフスタイルとか、都市に求められるニーズに対応していったらどうかと、大きく4点基本理念として掲げております。

基本理念に基づいて取り組みを進めていく中でどういう都市を将来的に目指すのかというのが3ページ目の右側に示している都市の将来像というところですが、都市の活力を生み出すパワーがある、パワーが生まれるまち、安全・安心で暮らしやすい、地域ごとの特性や文化を育むまちをつくっていく、それからそういったまちづくりに協働して取り組んでいくことで、暮らす人、訪れる人みんなが笑顔になれるまちというのをひとつの将来都市像ということで設定してはどうかということです。

「えがおが生まれる、えがおが集まる都市」というのが今の計画の中でキャッチフレーズとして掲げている言葉です。

大きな方向性としてガラッと変わるわけではありませんのでこれ自体を踏襲してもいいかなというのがありますが、見直し案としてお示ししているのが「えがおが生まれる、えがおが集まる都市」というのが現在のキャッチフレーズになりますが、ひとつは右肩上がりの成長の社会ではなく、成熟社会になってくると新たなものを生み出すだけでなく、今あるものを生かしたり、伸ばしたりという視点が重要になってきたりとか、それから少子化なんかの話がありまして、子を産み、育てやすい社会をつくっていく必要があるみたいなことを考えると、「育む」のようなキーワードはどうかと。

もうひとつはですね、環境とか都市経営の視点から都市の持続性というのが今大きなキーワードになりつつあると。地域のコミュニティーであるとか人との繋がりが重要になってくると、それから都市計画は都市計画だけで、何かやるというよりはですね、様々な面でいろんな分野が連携していく、あるいは産業が産業相互で連携していくというような、連携を促進していくことが重要になるということを考えると「つながる」というのはどうかと、あくまで案というのでお示しをしていますけれども「えがおを育む、えがおがつながる都市」というキャッチフレーズはどうかと、このあたり皆さんにご意見いただきたいところがございます。

一旦、説明についてはこのあたりで終わりにします。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございました。

それでは説明について質問、コメント等受けたいと思いますけども、よろしいでしょうか。

意見メモだと表面、資料でいうと3ページまでのところです。

○樺委員

2つあるんですけど、まず2ページ目のところで都市政策に求められる課題の中で、これは前のマスタープランの書きぶりなのですかね。

今、国の方で地方創生というフレーズがかなり年々出てきていまして、まあ、おそらく地方創生がやりたい政策がマスタープランに合致するところがあるのかなという気がして国の方も応援をしていただいているわけなので、そこをもっと酌んで書いてもいいかなという感想です。

あと、産業の活性化に関していいますと、もちろん産業の活性化としては企業、消費者ではあるんですけど、地方創生の中ではその地方である様々なセクターが、全て力を合わせて地方創生していくんだという話がありまして、まあ例えば我々大学ですとか高等専門学校などのいわゆる研究機関ですね、そういうところも地方創生に携わっていく、もしくは金融機関ですね産官学金連携という書き方をするそういうところの書きぶりもしてほしいかなというのがひとつです。

もう1つ目は3ページの将来都市像というので、私の感想に過ぎないんですが、左上のところのパワーがあるというのが若干気になって、パワーってなんですかってなったんですけど、左側の方には都市の活力・魅力の向上と多分ここら辺が言いたいのだなっていうのは分かるんですけど、パワーってなんか直接的だなと気になりました。

○鶴委員

2ページ目の右側の都市計画に求められる課題のところなのですけど、こういう課題もあるかなという観点で若い方々の働き方がどんどん多様になってきていると思いますので、特に子育て世代の方達が働きやすくなっているとか、そういうものも重要なのですが、働きやすさを課題として入れたらという感じです。

○慶長委員

今のご意見とても賛成で、企業を誘致したり、活性化して八戸を作っていくというのがありますけど、今の若い人たちが子育てをして生活をしていく上では育てやすい、過ごしやすい環境とか、あと、働き続けやすいような多様な働き方を企業に推進していくような文言も必要じゃないかなと思います。

○檜山委員

私の方からは質問も含めてお願いなんですけども、2ページの市の概要とか社会情勢の変化、将来展望と書いているんですが、課題とリンクしているんだろうと思うんですけども、ここをもっと分かりやすく表などにさせていただけると関連性が分かりやすくていいなと思いました。

あと、もうひとつは意見なんですけど、市の概要のところ、これは現在の市の現状ということでもよろしいですけれども、前回のマスタープランから色々な施設であるとか進捗した分といいますかこういうことがきて、今こうなっていますよというのが、この会議の中でもされてないと感じまして、課題だけ書いているので前回からのプランから同じようにうたってこういうここまでの基盤が整備しましたよというような表現が出るように工夫していただけるといいのかなと、課題だけがどんどん目の前にきてやることだけがっぱ

いになってしまうのかなという感じを受けておりました。

あと、3ページなんですけど、こちらの方でキャッチコピーというのがあったんですけど、気になったのが市の6次総合計画のキャッチコピーと、今回はこちらの都市マスの方で出される言葉がちょっとイメージとして関連性が見えにくいなというところがございまして、じゃあどうすればいいのかということになるんですけど具体の表現はなくて申し訳ないんですが、いずれ市の中で色々な計画と関連性を見ていただいた方がよろしいのかなという意見でございます。

あとは、どのページなのか4ページなのか5ページなのか分からないんですけど、八戸三社大祭であるとか、えんぶりであるとか文化という言葉だけが出てきていて、伝統的な文化行事のコメントが多分出てないと感じましたので、現在、色々なユネスコ登録ですとかというところの状態が変わってきたところのコメントが2ページあたりに入ると、もう少し肉がつくかなと思っておりました。以上です。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございます。他に。

○田頭委員

私も、2ページの課題のところでも超高齢化社会というのが一番上に出てきているんですけど、子育て世代というのがどこかに出てきているかなと思って見ていたらこの課題の中にはございませんでした。先ほど、若い方が暮らしやすいまちとか入っている中で、高齢者も安心とか子育て世代も安心というのが入っているとよかったなと思います。ぜひ、その辺の検討をよろしくお願いします。

それから、公園の整備といいますか、遊具が子供たちが安心して遊べるとは程遠い老朽化が出ているので、安心して遊べるための整備というのがどこかにあればいいなと思いました。

あとは、教育委員会さんの方では、教育キャッチフレーズ「夢育む」とかそういう素敵なキャッチフレーズがありまして、やはり子供たちを育むためのキャッチフレーズをこの中に参考として入れれば有難いなと思います。以上です。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございます。その他ありますでしょうか。

○泉山委員

先ほどから、子育て世代のことについてお話があって、私が感じることなんですけど、子育て世代はまあ、だいたい私くらいの年代なんですけど、30代で自分の家を建てる、建てない、どこに住むかを考えた場合、一番優先するのが最近ですと、どこの小学校に入れるのかということなんです。最近、八戸市内ですと1クラス、2クラスといった小学校が増えているなかで、なるべくなら大きな小学校に入れたいというのが我々の世代では多いので、そういうことを考えると今、八戸小学校の学区には住みたくないなというのが多いです。そういったことを考えていくと、そういった学校の整備とかが有効になってくるのではないかなと思います。以上です。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございます。他に。

○河村委員

地方創生の文脈というのを大事にすると人口減少を抑えるためにどうするかということで、大きい開発思考の発想はやめなさいと。

それからよく言われているのが地域間競争になることもナンセンスだからやめなさいと言われているわけです。

子育て世代が働きやすいとか住みやすいというのが大事で、それがどうも2番目の人口減少の抑制というところだと、いかにも行政の思惑みたいなものが見えてくるんですけど、本当は、シビックプライド、自分たちが住んで自信を持てるとか、ひとりひとりを大事にするというのが本当は市民によるまちづくりの推進みたいな、市民ファーストみたいなものがここに全部下に来てしまっているんですけど、順序を上の方に持って来た方がいいのではないかと思います。

元々の構造が古いままのようなので、なかなか難しいのかなと思って聞いておりましたが、皆さんの出されている意見はそういったところに来ているような気がしております。

せっかくだから今からでも市民第一みたいなものは上に持って来てはどうかと思います。

以上です。

○会長（武山委員）

その他にありますでしょうか。

また、後でご意見いただいてもよろしいですけども。

では次に進めたいと思います。

それでは、次に将来都市構造の後半の部分について事務局から説明をお願いします。

○事務局(株ケー・シー・エス佐藤)

それではA3資料の4ページからです。

引き続きご説明させていただきます。

将来都市構造のところです。

先ほど説明いたしました将来都市像を実現化していくためにどんな都市構造をめざしていくかということになりますが、まずは目指すべき将来都市構造のイメージの部分では、立地適正化計画の中でもこれを受けてやっておりますけれども市街地の拡大を抑制してコンパクトな市街地を形成する。

市内各所と拠点を結ぶ、公共交通のネットワークの充実を推進するということを通じて、人口減少の中でも都市の活力の維持向上を図りながらみんなが住みやすい、住み続けられるまちをひとつのイメージとしてコンパクト&ネットワークの都市構造というものの構築を図っていこうと、まずは目指すべき将来都市構造のイメージということで示しています。

それから、具体的に将来都市構造を考えていく中での視点については将来都市像を踏まえて大きく3つ視点を設定しております。

1点目が都市の活力や賑わいの原動力となるような産業の活性化を目指す視点、2点目が社会状況の変化に対応した暮らしやすさを追求するという視点、3点目が都市のゆとり文化を育むという大きな3つの視点の中で、将来都市構造の構築を考えています。

こういった構造を構築していく中で、コンパクト&ネットワークの都市構造を実現していったらどうかというふうなことで考えております。

それで個別の視点についてこういったふうに考えていくかということで、基本的な考えを示しているのが4ページ目の右側になります。

まず、1つ目都市の活力や賑わいの原動力となる産業の活性化を目指す都市構造の考え方という部分ですけど、既存産業の活性化、新たな産業の創出、交流促進、賑わいの創出などを通じて多様な都市活力を創出する都市構造を形成していったらどうかということで、大きくは都市の活力、賑わいの創出するような拠点を形成していったらどうかということですが、市内外から公共交通でもアクセスしやすい場所に多くの人が集い、交流することで賑わい活気を創出する拠点を形成するということ。

もう一方では、市内各所に立地する既存産業とかあるいは新たな産業の活性化、さらには観光交流の促進などを支えるような、都市の活力を創出する多様な拠点を形成していくことを考えています。

それから一方で、こうした拠点だけではなくてですね、産業や交流を支える交通ネットワーク構築という部分では市内外ですとか、広域さらには全国・世界につながるような人、物の円滑な移動を支える交通ネットワークというようなものを考えていったらどうかということなんです。

それから視点2つ目、社会状況の変化に対応した暮らしやすさを追及する都市構造の考え方という部分では、暮らしを取り巻く社会情勢の変化というのを踏まえながら、効率的で利便性の高い都市、交通サービスの提供とか、それから地域の特性に応じた居住環境の充実を通じて市民が暮らしやすい都市構造を形成していったらどうかということですけども、ここでも暮らしやすさを支えるような拠手の形成で、立地適正化計画の考え方と合致する部分にはなるんですけども、既存の都市機能の集積を最大限に活用しながらあるいは公共交通ネットワークとも連携しながら、市民の様々な外出行動に応じたような都市機能が集積して効率的に都市サービスを提供するような拠点を形成していったらどうかということ。

それから一方で、地域の特性に応じた暮らしのゾーンといったような中で自然環境との調和なんかにも配慮しながら、地域それぞれの特性を生かした快適で魅力のある暮らしのゾーンを形成していったらどうかと思います。

それから市民の日常生活を支える交通ネットワークの構築という部分では拠点へのアクセスとか拠点間、拠点内への移動のための手段になるような鉄道・路線バスなんかの公共交通を中心とした交通ネットワークを構築していったらどうかということなんです。

それから視点の3つ目、都市のうるおいやゆとり、文化を育む都市構造の考え方では、市内外の人が集い、交流するような拠手の形成で、特徴的な水と緑などを含めて、それぞれの特性を生かしながらそういう拠点を形成していただくとか、水と緑のネットワークという部分では、そういった空間をつなぎながら市内をめぐるようなネットワークを構築して

いくだとか、さらには水と緑のゾーンの形成というところで、地域ごとの特性とか求められる働きを踏まえた水と緑の保全・創出あるいは活用を図るゾーンを形成していったらどうかというところを踏まえて、今回将来都市構造を検討してきております。

お手元の資料の5ページになりますけど、将来都市構造の構成要素として大きく分けて土地利用、点的な要素となります拠点、線的な要素となりますネットワークという3つの要素で将来都市構造を構成していこうということで整理してございますが、まずは、土地利用区分としましては都市全体として開発・保全のバランスとか、あるいは地域の特色などの視点から大きく都市的土地利用、自然的土地利用という2つの区分で都市全体の構造としての土地利用というようなものを考えてはどうか。

都市的土地利用に関しては効率的な市街地を形成していくということを基本にしながらか、快適で都市的な暮らしやすさの充実を図っていったり、あるいは活力や賑わいを生み出す機能的な都市活動を確保するといったような観点からコンパクトで効率的な土地利用を展開していくと。

一方で、自然的な土地利用に関しては、無秩序な開発を抑制しながら貴重な自然環境の保全とか農林漁業への産業への活用といったようなものを図りながら、豊かな自然環境に囲まれたゆとりと落ち着きのある土地利用を展開してはどうかと考えております。

それから点的な要素であります拠点に関してはですね、いくつか視点があろうかと思っております。

都市の活力と賑わいを創出していくということ、それから市民の暮らしやすさの向上とか、うるおいのある都市空間の形成といったような視点から都市とか地域の中心、あるいは産業や交流の中心となるような拠点というものを7種類、今、示しております。

それで中心拠点、広域機能拠点については、立地適正化計画の中で都市機能誘導区域という形で設定している中心街地区、八戸駅周辺地区、それから田向地区という3つの都市機能誘導区域を概ねこの中心拠点あるいは広域機能拠点という形で設定しております。

ただ、立地適正化計画はあくまでも市民の生活を支えるような機能というところに着目した計画になってございまして、一方で、都市計画マスタープランについては必ずしもこういったことだけではなくて、産業とか観光とか交流とか直接的に市民の生活に関わってくる以外のものについても幅広く中心拠点なんかについては集めていくと、意味合いとしては都市機能誘導区域よりもっと広い意味合いでの拠点になると思っております。

中心拠点に関しては、多様な高次都市機能の集積を図っていくところですので、都市全体とか圏域全体の便利で快適な生活を支えるということでは立地適正化計画の位置づけと重複しますけれども、加えて都市の活力とか魅力を生み出す、多くの人が集い、賑わうような拠点を形成していくという形になろうかと思っております。

それで、広域機能拠点に関しては、地域の特性に応じた高次都市機能集積を図っていくことで、中心拠点を補完するような役割を担いながら円滑、効率的に都市サービスを提供していくということで、少し中身を具体的に示しておりますけれども、広域機能拠点については、八戸駅周辺地区、それから田向地区と大きく2つを想定してございまして、八戸駅周辺地区に関して言えばですね、当然、八戸の玄関口になりますので観光交流とかを含めて、中心拠点を補完するような玄関口としての役割を担っていくような位置づけになっていきます。

それから田向地区に関しては、市民病院が立地しているということもありますので、医

療・保健・福祉といった機能集積を図ることで中心拠点を補完しながら安心な市民生活を支える拠点を形成していくという位置づけで整理してございます。

それから、地域生活拠点に関しては、既存の集積をうまく活用しながら身近で基本的な都市機能の維持、充実を図っていくことで、暮らしやすさを支えながら身近な拠点を形成していくというような意味合いで整理してございますが、こちらについては立地適正化計画の中では都市機能誘導区域といったところで設定しているところではございませんので、基本的には用途地域による規制誘導とかですね、あるいは今、既にある都市機能の集積を維持、充実させていくというような考え方の中で拠点として位置づけていくような今みたいなくくりかなと思います。

それから産業、物流拠点に関しては地区の特性にあわせた多様な産業、物流の拠点を形成していくということで、こちらについても中身でみますと、循環型産業拠点、それから物流拠点、八戸市の基幹産業のひとつであります水産業に関する拠点、情報産業拠点ということで中身としましては、地域の特性にあわせた色分けで拠点を考えております。

それから観光・交流拠点に関しては自然とか歴史・文化とか食といった魅力のある地域資源それぞれの特性を生かしながら観光交流を促進するような拠点を形成してはどうかと。

6番目学術拠点ですけれども産学官の連携とか学術をけん引する拠点を形成してはどうか。

それから、水と緑の拠点という部分では大規模な公園とか自然資源などのそれぞれの特性を活かしながら市外内から人々が集ったり、交流するような拠点を形成してはどうかというようなことで、この水と緑の拠点に関してもたくさん人が集まってくるような大規模な公園みたいな拠点と、それから豊かな自然環境を生かすような形で安らぎ・癒しのようなものを提供するという一方で、中身としては、2種類ぐらいに大きく分けられるかなと考えております。

それから線的な要素であるネットワークについては、大きくは交通ネットワークと水と緑のネットワークということで2つに分けていますが、特に交通ネットワークについては公共交通ネットワーク、それから道路ネットワークということで考えております。

公共交通ネットワークは特に市民の生活を支えるという部分で、ですね、鉄道・路線バスなんか連携して相互に補完しながら市民の生活に不可欠な基本的な移動手段を確保する。

それから都市の活力や魅力を支えるネットワークということでネットワークの構築を図っていったらどうかと。

一方で、道路ネットワークについては市民の快適な暮らしという部分もありますけれども、さらには活力ある産業活動、災害への緊急活動なんかも含めてそういう支える道路ネットワークを構築していったらどうかというようなところで考えています。

それから水と緑のネットワークに関しては、八戸らしい空間を形成している海岸線や河川沿いの空間を繋いだようなネットワークを構築してはどうかというところで、こういうものを構成要素として将来都市構造というものを考えてはどうかということで、実際それを絵にしてみたものがお手元の資料の6ページになります。

大きな都市構造でみれば身近な生活サービスを提供する地域生活拠点については市内各所に地域の中心的な場所にきめ細かく配置していくということ、それから海岸線とか新

井田川、馬淵川といったような大きな河川でもって水と緑のネットワークを構築していく、さらには、中心拠点を中心にしてですね、市内各所に放射状に伸びるような交通ネットワークも考えていくようなところで整理してございます。それで南郷地域が少し薄いような印象になってはいますが、ここについてはですね、来年度、地域別構想なんかは地域の方々と検討していくことになっておりますので、他の地域もそうなんですが都市レベルの都市構造の中に反映させるべき要素が出てくればですね、随時こちらの構造図の中にも反映させていきたいと思っております。

一方で、市街地周辺のところで見ますと、立地適正化計画の都市機能誘導区域にあたるような中心拠点といったところ、それから田向地区、八戸駅周辺地区としては広域機能拠点という形で位置づけていることと、市内の工業高等専門学校、大学としては学術拠点としての位置づけ、さらには八食センター、市場の再開発の話なんかは新聞に出てましたけど、陸奥湊駅周辺のところとか蕪島、種差海岸といったところは観光・交流拠点ということで位置づけをしたらどうかなというところでは。

将来都市構造の説明は以上になります。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございました。

それでは、後半部分の説明で、意見メモでいうと裏面になるわけですけども、前の方でもいいです。

何かコメントがあればお願いします。

○河村委員

まだ、形成するとか構築するとかまだ新しいものが出来てくるイメージで、その守りの部分というか縮小する中で、どっかで社会資本の老朽化というのは前の方のテーマに出てきたと思いますし、かなり維持することに気を使わなければならない時代になってきて、私は緑の審議会の方に関わっているんですけど、水と緑のネットワークという言葉はすごく何回も出てくるんですけど、実際には公園に植えた木がどんどん老朽化して、倒木したりして、守るのに手一杯で新しいのを作っていく余裕がない中で、いかにそれを効率よく、そこら辺をいいつつ、もうそれは行政では出来ることではないんだろうなと思いつつ、今あるところでどうやって皆さんの意識で緑を増やしていくか、おそらく行政でも木を植えられるんじゃないかというリスクがありますし、倒れてくるものに対して安全を守るのに手一杯な状況ですし、水と緑のネットワークって誰が作るかという、それぞれ住んでいる人達が意識してやるしかない訳なんですけれども、少しここが抽象的で美し過ぎて、もう少し守り、しっかりみんなで環境を都市空間を守って、維持して大事に作り変えていきましょうよっていうメッセージが欲しいような気がします。

○橋本委員

私もその意見に賛成です。

おっしゃるとおり、今までにあったものをきちんと維持管理できるかっていう財政がひっ迫している中で、今まで培ってきたものの維持管理ができるかどうかということで、学校なんかはこれだけ児童数が減ってる中で考えられるのは統廃合ですけども、学校という

のは地域の中心的な役割をずっと担ってききましたので、ひとつの学校を廃校にすると、相当な痛みを伴うだろうと思うから、頭で考えるほど簡単ではないだろうなと思います。

それから、確かに八戸の場合は海岸線としての種差公園、金浜にかけてずいぶんと市民に愛されてきた土地ですね。

山手の方に向かって昔から色んな海浜植物が繁茂していたんです。

それがどんどん環境の変化によってなくなって、今では下北の方が海浜植物が多くなって八戸の海岸線はそういう意味では植物にとってはずいぶんと廃れてきております。

そういう自然環境の変化の中で、是川の自然にしても南郷の自然にしても、手付かずに残すにしても維持管理していきまないと、ただ放置していいものでもなく、河村先生がおっしゃるとおり、なんとか新しく作りなおすにしても、どうにかしてそれを縮小しながらも、もっていければいいなと思います。

また、ご意見出てましたように子育て世代が住みやすいまちっていうのもまた、人口減少に歯止めをかけるためにも、生産性の面から言いましても重要課題の中のひとつですから、先ほどの意見もありましたように子育ての部分も、もう少し大きく取り上げて上の部分にもっていても、よろしいのではないですかね。

この高齢化社会はいずれ何十年後かに平均年齢も落ちてくるだろうし、高齢者の減少もいずれ出てくると思います。

昭和二桁の世代と大正年次の方々の人口というのもまた、違いますでしょうし、おそらく平均寿命も変わってくると思います。

子育てのところをもう少し重要課題として採り上げる文言があってもいいんじゃないかなと思います。

都市部の機能についても新しく構成するというよりも空き家対策のようなものなんかが考えられないかなと思います。

どうにかして活用できる方法を国の税制とは大きく連携しますけども市の単独の考え方としても、中心市街地に対して人口集積ができればいいなと思います。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございます。どうぞ。

○慶長委員

この観光・交流拠点のところですけども、次のページのマークしているところは種差とか自然の海岸のところなんですけども、根城の史跡とか是川縄文館とか南郷の資料館とかそういう所をどうなのかなと思いました。

それからこれからは近隣からも人を呼び込んだり観光客を誘導するために、観光事業ブラッシュアップとあとは魅力の発信に力をいれるような前向きな書き方がいいのかなと思います。

以上です。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございます。その他。

○石橋委員

課題の部分で先ほど子育て世代の話が出ていたのですが、視点のひとつとして子供が夢と希望を持って伸び伸びと成長することができるといった視点からも子育ての部分の強く出してもいいのかなと感じました。

これが一点です。

思ったのですがそれを踏まえて感想なのですが、笑顔が生まれる、笑顔が集まる都市というのが、子供の視点、子育て世代の視点からも非常にいい言葉なところだなと感じました。

○会長（武山委員）

その他ございませんでしょうか。

○泉山委員

6ページの地図を見たところ、恐らく今の現在の八戸市のスケールで書かれているのですけれども、現在これから連携中枢都市圏そういった視点で物事を考えていけなければいけないとすると、少し視野が狭いかなあというふうに感じました。

恐らくおいらせ町や近隣の市町村からも交通ネットワークいろんなものを使って交流があると思うのでこういった視点をもう少し縮尺の違うものも必要ではないのかな、またそういった人たちがどのような交通網を使って八戸に来て中心街の活性化にも少し役立ってもらおうかというところも、この地図からはちょっと読み取れないかなと思いました。以上です。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございます。その他。

○樺委員

感想的な話なんですけど、先ほど河村委員が言っていたのですが、恐らく人口が減るとか、日本全体で減って行って、高齢化もどんどん進んで行って少子化も避けられないとなつて恐らく高度経済成長からずっと人口が増えていくときは、潜在的な意識の中で人口が増えて企業がたくさん立地して、それで経済の活性というそういう右肩上がりのときの書き方になってるなという印象があります。

勿論それはどうにかしていかなければいけない考え方もあるんだと思いますけれども、このある程度人口が減る中で良い面もあると思うのです。

例えば混雑が少ないとか、都市部なんかを見ていますと、例えば通勤の時に1時間とか1時間半満員電車に揺られて通勤をしているわけですね。

こんなのを比べたら八戸市ははるかに短い時間とコストで通勤ができる。

それは恐らく暮らしやすさとかそういう部分に繋がってくるわけですね。

人口が増えて右肩上がりの時代というのは、それはそれで恐らくこんなに来ないと思いますので、減っていく中で良さを見つける様な書き方をしないと恐らく市民の方はこのマスタープランに希望を持ってないのではないのかなというふうに思います。

以上です。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございます。その他。

○上舘 GL（石亀委員代理）

公共交通ネットワークの部分ですが、都市の活力や魅力を伝える公共交通ネットワークを構築します。

とあるのですが残念ながら今バス事業はご存知の通り、南部バスさんの件もありますし、今の路線を維持していくのが手一杯の状況になっていまして残念ながら観光であったり、こういったところに新しい車両なりを投入していくというのは、非常に難しい状況でございます。

「構築します」という部分が新しく出来て行くというようなイメージを与えますけれども、やはり大切な路線を維持していくように重点を置くようなことしか出来ないのかなと思っております。

あと、これは交通の方とは関係ないのかもしれませんが、人口の流出、減っていくというのがありますけれども実際には階上であったり、おいらせというのが横ばいであったり若干増えている部分がある。

これは、八戸のベットタウン的なものとしての意味合いとして増えているわけですね。いろんな税金が安いとか家を建てる際の建ぺい率だとか、いろんな理由があるのでしょうけれども、今後、八戸市が中核市になったときから広域的なものとして動いていかなければならないが、そのこの部分の矛盾というのをどこまで捉えていくのか、というのが非常に難しいのかなと感じました。

例えば、階上町さんとバスの路線今でも南部バスが走っていますけれども、今後本数を増やしてアクセスを多くするというふうにしますと、ますます八戸から階上に移住される方が増えるような流れもあるかもしれない。

その辺の部分での矛盾をどういうふうにして解消なり理解なりこういう方向付けでいくというのを決めるのが今後の課題になるのかなと思います。

以上です。

○会長（武山委員）

はい、その他。

○田頭委員

今お話を伺っていて、実は別な方向で意見をしようと思っていたのですが、5 ページ目の公共交通ネットワークのところの2行目です。

都市の活力や魅力を「支える」ではなくて、「発信できる」ようなものがあつたらいいなと思っています。

実は、教育委員会さんの方で「はっふる隊」というのが今始まっています、それこそ、八戸圏域の遺跡や観光名所を小学生に巡らせるという新しい取り組みが始まっています。

そういうことを考えると、支えるだけではなくて何かを発信していただけるような公共交通だったらすごくいいのかなと思います。

以上です。

○鶴委員

すみません。

じゃ私の方から公共交通のところ続きましてあれなのですけれども、中心街で働いている方々に話を聞いてみますと、結構車で通勤されている方がほとんどです。

バスを使って通勤されている方いますかというので、いろんな会社さんに話を聞いてみても、なかなかバス利用されていないというのが現状としてはあると思います。

ちゃんとした数字で取っているわけではないのですけれども、そこを鑑みますと公共交通の利用率を高めていくような動きかたが出来ないのかなと。

もし、それが若い方々でも公共交通とか民間でもなんでもいると思うのですけれども、そういう輸送手段を手に入れることによって、例えば駐車場問題、中心街の駐車場問題が解決するかもしれませんし、それによって中心街自体が新たな建物を建てられるようになるかもしれません。

その辺の他の線も考えると今の移動手段ではなくてそういう公共交通とかを使えるように利用を促進するみたいな観点でもうちょっと知らせられないのかなというのが一つ意見です。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございました。

○上館 GL（石亀委員代理）

バス会社にとって何が一番収入になるかという通勤定期券こちらの方が学生と違って割引率もある程度低い、料金も低く抑えられますし、ずっと乗っていただけるということで通勤定期券の一番利益率が高いということです。

今です前年度、県の環境政策部門がバスで通勤しましょうということで1週間ぐらい市の方が関係してバス券を出して1日例えば往復で300円のバス券を補助します、というなかたちでやっていただいたわけですが、乗っていただいたのが10名~20名程度くらいということで非常に参加率が低かったようなことがあります。

それで、通勤方法をバスに替えるにあたって一番問題になっていると思われるのが、いわゆる通勤手当の問題となっていました。各事業者が通勤手当を払ってバスで通った分を出せますという会社がどれくらいあるか、大規模な会社ですと出せるところが多いのでしようけれども、なかなか中小企業であって満額出せるということは少ないと思っております。

引き続き、商工課を通してどのくらいあるかということ調べてようと思って調査をお願いしたいと思ってお願いしたところですが、残念ながら市の方の商工課でその部分は押さえてない、会社自体が出していないのか意図的に調べていないのか解りませんが、そういったこともあってその通勤手段を替えるというのはやはりお金の問題が出てくるだろうというのを一番感じております。

もちろん、増やしたいと思って、例えば通勤定期券をまとめて買っていただいた会社に対して、例えば、2%~3%のお金を会社にお持ちするというようなことをやっている、これは福島の方ですけれども、こういったことをやっているところもあるのですが、なかなかここまで行っていないというのが現状でございます。

○泉山委員

引続き公共交通のことですが、我々民間の交通インフラというタクシー事業のグループ会社でやっているわけですが、我々のグループ会社のひとつの三八五交通、これは八戸市を主にタクシーで商売する会社なのですが、この会社が昨年度のあるデータによりますと北海道・東北全タクシー事業者の中で一番売上がある会社だったのです。

仙台、札幌といった都市がありながらも我々八戸市のタクシー事業者の売上が一番多かった。

これをどう捉えるかということ恐らく八戸市の方々は自分の自家用車以外の交通手段としてタクシーを多く利用しているということなので、ということは交通に関するコストを皆さん随分とお支払いすることになると思いますので、そのところ我々民間事業者も公共交通と何かタイアップしてうまく共存できるヒントがここにあるのではないのかなということ、一つ提案いたしました。

以上です。

○会長（武山委員）

その他ございませんか。

○木村委員

資料5ページの(3)ネットワークの交通ネットワークのところになるのですがけれども、上の公共交通ネットワークという枠のなかで文面的に1行から2行にかかるところ、「市民の生活に不可欠な基本的な移動手段を確保するとともに」、とあるのですがこの基本的な移動手段というのはですねイメージが出てこない正直なところ、何をもって基本的な移動手段なのか、主語的にいうと鉄道です、路線バスですと一応、先ほど泉山委員からも、タクシーの利活用というのもあるでしょうし、その辺が乗り継ぎ乗り継ぎという補完するところまではどうにか理解できるのですがけれども、不可欠な基本的な移動手段、この基本的な部分ですね。

どんなのが基本的なのか、何をもって基本的というか、そのイメージが湧いてこないという部分です。

あと、話が変わるのですが私八戸市内に居住しながら勤めている者ではありません。

現在、青森市内の勤務先のため、居住地が青森市内なのですがけれども、私も新聞とかニュースで知りうる情報でしかないのですが、資料の4ページ将来の都市構造というところで(1)・(2)・(3)とあるのですがこちらの方は拠点としては、3つですかね中心市街地・八戸駅あと田向地区と確か八戸駅の西口ですかね、整備していきますよと。

整備するにあたっては、いろいろなテリトリーとかゾーンをつくりながら綺麗なまちづくりをするという青写真出ていたように記憶しています。

まさしくここに出ている要素ですね。

全部取り組んでいる八戸駅西口整備だろうなど、あるいは中心地を見ると、以前から「はっち」は今の交流拠点として、「はっち」も全国的な何何賞という賞を受賞している施設でもあります。

また、ちょっと名前違うかも知れませんがテラスでしたか。

新しくできたような。

まさしく中心地には人が呼び込める集まれる場所というのも整備されてきているのです。

まさしくここに出ているところは、既に起っていると、それを改めて書くというのはどうなのか。

書くのであれば単なる飛躍的な部分ですね希望を持つような書きぶりにした方がいいのではないか。

あとは、3つ目の田向地区ですね。

あの辺は市民病院を拠点にしながら防災基地、ヘリコプターの着陸騒ぎで何か問題があったような記憶があるのですけれども、その辺の整備ということで確かまだ田向地区の整備についてはまだ青写真を見た記憶はないのですけれども前に青写真が出ていたのかもしれないのですけれども、現状ですね田向地区がどのような方向性に向かっていくのかちよっと知りたいなと思いました。

以上です。

○会長（武山委員）

はい、ありがとうございます。他に。

よろしければ、取りまとめていきたいと思っておりますけれども。

前段で立地適正化計画ということで、お示ししましたけれども、特に修正意見ということがございませんでしたので、この形で「立地適正化計画【都市機能誘導区域】の案」ということで、市長の方へ提出させて頂きたいと思っております。

ありがとうございました。

あと、マスタープランの全体構想というところ、これはたくさんいろいろ意見を出しましたけれども、やはり人口減少社会に転換するところで、何か出し切れていないところもあると思っておりますけれども、言葉を作るとか集まるとか育む、つながるこのあたりが少し転換しつつあると思っておりますけれども、もう一度そういう目で眺めて見て、書きぶりの方をチェックしていただけるといいと思っております。

あと、最後にも出てきましたけれども着実に進めてきている部分があるわけで、これからもまたつくるものもあるわけで、その必要性和これまでつくってきたものがどういうふうに効果を上げているか、課題のところと合わせて現状のところですかね。

そのあたりあまり自画自賛になってもよろしくないと思っておりますけれども、現状が変わってきている部分というところをやはり含めて、他にあがっているところは書き込んでもらって、あとは現状分析から課題が出てくるところの対比のところを工夫して貰って解りやすい表現をしていただけるといいのかなと思っております。

あとは、2ページの課題のところですがけれども、順番のところを見直していただいて特に人口減少についてはいろいろ意見が出ましたけれども、やはり、まち・ひと・しごとで人口レベルが外れるわけにはいかないのでしょうかけれども、必ずしも目標を達成できない。

今、言った線よりも人口減っていく場合も有りうると思っておりますので、その辺で非常に問題が出てくるのかなと思っております。

そんなに減らなければ OK でしょうけれども、あるいは、人口が増えるときには後手後手に回ってしまう、逆に、これから人口が減るのに規模を縮小しきれない、いろんな無駄な費用が発生するといったことがありますので、そのあたりを書き込めということではないですけども、注意する点なのかなと。

ただ、中核都市としてある程度人口減少を抑制したいというのもあるのですが、そのあたりでいうと先ほどから出てましたけども、若い世代と子供が成長できるなど、言葉を出されていましたが若い人とか働きやすいとか子育て世代が子育てできるというあたりを、もう少し潤沢にみて書き加えていただけるといいと思います。

えがおが生まれる・集まるから、育む・つなぐという、表現としては少しやわらかい表現が必要かなと思います。

パワーが、活力にしてもまだ強めだというところで、やはり人口減少というところをどうやって受け止めてこのまちをどういうふうにしていくか、もう少し考えていただいて、案が無くて申し訳ないんですけども工夫していただければいいと思います。

あとは、公共交通の方、かなり意見出ておりましたけども、このあたりも書き方が難しい部分はあると思いますけども工夫してください。

あと、5 ページで意見出ておりましたけども公共交通のところの主語の部分を書き加えるというのと、やはり、八戸の都市のことを書かないとならないのでしょうけども、やはり青森から通っているとかですね広域で動いていると思いますし周辺から相当八戸市に、減ってきているとはいえますけども八戸はまだまだ通勤・働きに来ている人がいるので、細かいところを書こうとすると、やはり縮尺が必要となりますが、2 パターンで、周辺を含めたものと、必要があると思います。

あとは、個別のところは、あとででてくるということで、田向とか具体の名前で出ておりましたけども、それについては次回以降、まちづくりの方針というところで、改めて意見いただければいいと思います。

また、それを踏まえて、将来都市像と都市構造のあたりに反映していくと思います。

以上、私の方からのまとめとしては、雑多ですが、意見と言うことでお願いします。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

○事務局（石橋 GL）

はい、委員の皆さまありがとうございます。

次回の第 7 回目の策定委員会については、来年度の開催を予定しております。

日程が決まりましたら、前回同様、資料の方を配布させていただきたいと思います。

ここで、少しだけ事務局の方からお知らせがあります。

○事務局（木村）

最後に、お手元の資料の八戸市都市計画マスタープラン等策定委員会委員募集ということで、公募の方に欠員が出ていまして、今月の 2 月 24 日金曜日までに募集しております。

300 字程度の作文と氏名住所、必要事項、申し込みというふうになるのですが、もし、委員の方のまわりで、お知り合いの方に興味のある方がいましたら、お声がけいただけましたらと思います。

よろしく願いいたします。

○事務局（石橋 GL）

はい。では、委員の皆様、長時間に渡りありがとうございました。

来年度の方も引き続きお願いしたいと思います。

それでは、これをもちまして、第6回八戸市都市計画マスタープラン等策定委員会を終了させていただきます。

本日はありがとうございました。